



福島林業

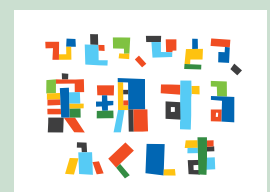
No. **705**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



5

2023



監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 次 世 代 の 息 吹



令和5年度の取組について

福島県農林水産部長
沖野 浩之

皆様には、日頃より本県の森林整備の推進と林業・木材産業の振興に御協力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

令和5年度の取組につきましては、「福島県農林水産業振興計画」の基本目標に掲げた『もうかる』『誇れる』共に創るふくしまの農林水産業と農山漁村の実現に向け、生産力及びブランド力の強化と担い手の確保・育成など、特色のある「ふくしまならではの」農林水産業を未来につなげていけるよう、各種施策を積極的に展開してまいります。

まず、県民が森林・林業の重要性への理解を深め、守り育てることをはじめとした、県民一人一人が参画する新たな森林（もり）づくりを推進するため、福島県森林環境税を活用し、各施策分野に取り組んでまいります。

森林の再生につきましては、放射性物質の影響によりしいたけ原木の生産が停止し、原木林の更新に必要な伐採が停滞していることから、「里山・広葉樹林再生プロジェクト」により、国、県、業界団体が連携して広葉樹林の再生を図っており、市町村毎に策定した「再生プラン」に基づき、原木林の伐採・更新等の取組を計画的に進めてまいります。

海岸防災林につきましては、飛砂・潮害・風害の防止機能や、津波被害の軽減効果など防災機能の早期発揮のため整備を進めているところであります。現在九五割が完成しており、引き続き速やかな復旧に努めてまいります。

県産材の利用推進につきましては、「ふくしま県産材利用推進方針」に基づき、対象を公共建築物のみならず、中高層建築物等を含めた建築物一般へ拡大したところであり、木材利用による脱炭素社会の実現に向けて、より一層の県産材の利用推進を図ります。

きのこの等の林産物の生産振興につきましては、安全なきのこを生産するために必要な生産資材の導入支援に引き続き取り組むとともに、山菜や野生きのこの出荷制限解除に向けた取組を推進してまいります。

また、本県の林業を、将来にわたり持続的に発展させることができる成長産業とするため、実践力のある人材や、森林経営管理を担うことができる人材を育成する「林業アカデミーふくしま」が昨年度より本格開講したところであり、引き続き、地域林業の核となる担い手の育成に取り組んでまいります。

今後とも、本県の森林再生と林業・木材産業の復興、林業成長産業化の実現に向け、積極的に取り組んでまいりますので、皆様方の一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

令和5年度の取組について

福島県農林水産部長 沖野 浩之…1

林業アカデミーふくしま

「就業前長期研修」第2期生入講 …2～6

緑の募金にご協力を!! …7

普及指導員通信 …8

フォレストだより …9

苗協だより …10

木の文化を育む⑤⑩ …11

木材市況・ふくしま東西南北 …12

はなしのひろば・お知らせコーナー …13

林業アカデミーふくしま 「就業前長期研修」第二期生入講

福島県林業研究センター



上：第二期生入講式記念写真
下：仙人になる決意を決める研修生 一学び舎の中で

県では、本県の林業の未来を担う人材・人財を育成するための研修「林業アカデミーふくしま」を運営しています。令和三年度からは、市町村職員や林業従事者を対象とした短期研修が、令和四年度からは、これから県内の林業に就業を希望する方を対象とした就業前長期研修が開講しました。

第一期生は、「林業に関する幅広い知識の習得」「森林施業技術の習得」「資格の取得」「インターンシップの実施等」の四本の柱で構成されたカリキュラムに基づき、就業に必要な知識・技能を身につけ、県内の林業に貢献するという使命を胸に三月の修了式で旅立つばかりです。四月七日(金)、佐藤宏隆副知事と佐藤政隆県議会副議長のご臨席の下、第二期

生を迎える林業アカデミーふくしま就業前長期研修令和五年度入講式を研修施設の大講義室で挙行し、アカデミーの研修を糧に、県内の林業業界で活躍しようという意気込む二期生十六名が入構しました。始めに、伊藤正一林業研究センター所長から研修許可証と貸与品の防護ヘルメットが交付されました。

その後、伊藤所長からの式辞、知事告辞があり、代読された佐藤副知事からは、「互いを支え合う研修生をイメージされ作られたシンボルツリーのように、同じ志を持つ仲間と共に切磋琢磨しながら困難を乗り越え、福島県林業の未来を担う人材として、大きく成長してほしいと激励されました。

来賓の佐藤副議長からの祝辞に続き、研修生誓いの言葉として、研修生の大槻学さんが、「より高度な技術を習得したいという仲間たちと共に学び、技術者としての感性と倫理観を身につけ、時代を先行く創造性を備えられるように努めていきたい」と研修生活への決意を表明しました。

今後の研修運営にあたり、研修生の作業技術の習得や現場に必要な資格取得、さらには就職希望先とのマッチング等につきまして、引き続き森林・林業関係者の皆様のご協力をよろしく願います。

※研修の様子は、「林業福島」で掲載するとともに、Facebookで随時公開して参りますので、ぜひご覧ください。



林業アカデミーふくしま Facebook

続けることが 上達の極意

林材業労災防止協会福島県支部
事務局次長 鈴木 比良

二期生の皆さん、ご入講おめでとうございます。

皆さんの先輩たちは、一年間アカデミーで様々な知識・技術を学び、県内の林業事業体・森林組合で頑張っていると思います。そんな一期生にエールを送るとともに、二期生の皆さんにも覚悟を持って研修に臨んでもらえるよう言葉を贈ります。

令和四年度の修了式が終わり、嬉しいような、少し寂しいような気持ちになりました。今、一期生の皆さんは、それぞれの職場に勤めながら筋肉の痛みなどを感じていることと思います。大丈夫、筋肉の痛みは一ヶ月を超えると無くなります。動くことの一番のメリットは、健康と食べ物の制限をしなくて済むことなので、ある意味うらやましく思います。

さて、一期生には研修中も話しましたが、現場でチェーンソーを使って、褒められたらもう終わりだと思ってください。「下手くそ。何を学んできた。馬鹿者。」と言われ続け、数年後には職場で一番のチェーンソー使いになってください。それには、基本に忠実かつ柔軟な応用力、そして長く続けることです。「無事、これ名馬」の喻えのとおり、健康第一、安全第一で一年間頑張ります。



受講生の紹介



大槻 学
(宮城県登米市出身)

前職の飲食業はコロナ禍により、非常に大きな影響を受けました。そのような中で家族や自分の将来を考え、前職が一生続けられる仕事なのかと悩みました。

そんな時、林業アカデミーふくしまの募集ポスターが目にとまり、気になって詳しく林業の内容を調べてみました。調べていくうちに林業が社会的に重要な役割を担っていることに気付きました。

地球環境、特に山の管理が水資源の保全に欠かせないこと、自然災害を防ぐことを知り、これからの自分が携わっていく仕事へのやりがいにつながると確信しました。

新しいスタートを切るにあたり、安全第一を意識しながら林業に関する正しい知識を身につけたいと思っています。また、新しい仲間とコミュニケーションを取り合って福島の林業の明るい未来を担う一員になりたいです。



郷 政時
(石川町出身)

私は、小さい頃から緑に囲まれて育ってきたことから、林業が森を守る仕事と聞き、興味を持ちました。そして、オープンキャンパスなどでこの林業アカデミーふくしまを知り、入講しました。

まだ一ヵ月しか経っていませんが、四月の研修で林業には現場でしか分からないようなことがあると知りました。私と同じように森林に興味がある皆さんも一度林業の現場に足を運んでみて下さい。

私は、この一年を通じて、林業の魅力を再発見し、皆さんにそれを伝えていけるようになりたいと思っています。



佐藤 薫
(伊達市出身)

私には、社会に貢献していることを肌で実感できる仕事に就きたいという思いがあります。中でも林業は、日本の環境や燃料問題の一翼を担い、気候、生態系を保全し、文化を守り進化させていく仕事だと感じています。

林業アカデミーふくしまで、ハーベスタのシミュレーショントレーニングやドローンなどの先進技術とともに、しっかりと植林・造林方法や伐採技術等の基礎的な分野も学ぶことで、就業後は今と未来を繋げたいという強い使命感を持ち、社会の一角を照らすような林業従事者になりたいと考えています。



佐藤 貴輝
(郡山市出身)

私は、昔から身体を動かすことがとても好きで、自分に合った仕事は身体を動かす仕事ということを理解しており、今まで自衛官や土木作業員として働いてきた経験を活かせる仕事を探していました。

まだ四月ですが、林業とは、木を育てて森を作り、木を伐採し、売却して流通させる産業であると学びました。また、林業の仕事は、伐採した場所に新たに苗木を植え管理していく仕事のほか、木材をペレットや薪等の燃料として使用できるように加工して販売する仕事など、様々であり、とてもやりがいがあると感じました。

今後は森林資源の循環の仕組みの確立及び長期的な森林の管理をしっかりとして学び、技術を身に付け、一人前の林業従事者を目指して頑張りたいと思います。



塩田 天空
(福島市出身)

両親と共に河川敷を歩いていると、すぐそばで大きな枝が根元から落ちて来て危うく下敷きになりそうになった、という経験をしたことがあります。

親や祖父母の影響で幼い時から林業や環境への関心は強かったのですが、その出来事に遭ったからこそ、「辛い」「苦しい」と言われる林業の世界に飛び込んでゆく決心がついた気がします。

大学に進学して研究職に就くという手段もありましたが、人手が明らかに足りていない現場に直接立って自分の手でどうにかしたいと考えてアカデミーに応募しました。

ここで林業の基礎的な知識を身につけると共に様々な人に林業の事もっと知ってもらおう為のヒントを見つけたと思います。



清水 聖矢
(天栄村出身)

私の長所は最後まで諦めずに頑張ることができるのと、体力に自信があるところです。また、自然の多い環境で育ったために、以前から体を動かす仕事、自然と関われる事に就きたいと考えていました。

中学二年生の時にある林業の会社を見学したことをきっかけに、林業関係の仕事に強く関心を抱くようになりました。見学では、チェーンソーを使って木が伐採され、非常に細かくきれいに加工されていく様子を見て、林業にさらに魅力を感じました。詳しく調べていく中で、現在の日本は林業従事者が年々減少し、深刻な人手不足に悩まされていることも知り、福島県の林業の発展に貢献したいという気持ちも強く抱くようになりました。そのためにも、この長期研修によって林業に関する専門的な知識や技能、技術を早期に習得したいと考えています。



鈴木 瑞樹
(福島市出身)

私は、高校の恩師の勧めでオープンキャンパスに参加し、説明を聞いたり、PR映像を見たりして、林業の魅力を知りました。また、体力や忍耐力に自信があるため、体を動かす仕事をしてみたいと考えていたこともあり、アカデミーに入講することを決めました。

一年という限られた時間の中ではありますが、林業アカデミーふくしまで可能な限りの知識と技術を学び、長く現場に出られるようなチェーンソーマンになりたいと思っています。



瀬谷 光広
(石川町出身)

私は、「自然の中で生きていく」という自分の目標としているライフスタイルを実現させるために林業を生業にしていきたいと考えています。そのため、様々な知識や技術とその基礎をしっかりと学ぶ必要があると感じ、それを実現できる環境だと感じた林業アカデミーふくしまに入講しました。

特に、重機やチェーンソーは作業の中でとても大切な手段だと考えており、その仕組みと実際の使い方、付き合い方をしっかり覚えて活かしていきたいと思っています。

危険も多いと思いますが、基本を守り安全に作業することで自然の中で活動する楽しさを広げていきたいと考えています。



田村 愛翔
(郡山市出身)

私は、元々自然が好きであり、楽しそうだなと感じたことから、林業に興味を持ちました。

きっかけは、自然に触れ合える仕事を探している時、高校の担任の先生にこの林業アカデミーふくしまのパンフレットをもらったことです。詳しく調べて行く中で林業の現状を知り、この問題を解決していくことが福島の復興にも繋がると思い、「自分はこの林業アカデミーふくしまに行くと行って社会に貢献したい。」という大きな目標が出来ました。インターシップに行った時は何故か自分だけしか居ないという珍事件が起きましたが、職員さん全員が真剣に仕事をしていて林業はとても重要な仕事なのだと思い教えてくれました。

限られた期間ですが、この一年間で精一杯知識や技術を学んでいきたいと思えます。



本田 健人
(福島市出身)

私は、将来自然と関わる職業に就きたいと思い、アカデミーに入講しました。

以前は、製造業に就職したいと思っていました。製造業に就職したいと思っていたのですが、私は室内の単純作業では続かないと思い、好きな自然の中で仕事をしたいと考え直しました。

自然の中で働く職業はほかにもあります。その中でもなぜ林業を選んだのか、それは、広大に広がる森林を目にしたとき感動と好奇心が溢れてきたからです。そのため、私は森林で働きたいと思い、より林業の知識を得るために林業アカデミーふくしまを志望しました。そして、私は将来、林業の楽しさや危険性を自ら体験し、今の林業という業界をより多くの人に伝え、興味を持ってほしいと思っています。



緑川 海斗
(棚倉町出身)

私が林業アカデミーふくしま就業前長期研修を受講しようと思ったきっかけは、就職先である東白川郡森林組合です。

元々森林組合へは事務として入る予定でした。しかし、この研修の話を聞いて、林業関連に就職するのにも関わらず私自身は林業に関しては何も知らない素人だということに気づき、一年間という短い期間ですが、林業を学びたいと思い、受講させていただくことになりました。

私の今後の抱負としては、一日一日の研修を大切に、学んだことを一年後働き始めた時に活かせるように、毎日休まず研修を受けていきたいと思います。福島県の林業の未来を担う者として恥じぬよう一年間頑張ります。



武藤 唯
(二本松市出身)

「売れないから、手入れするだけ赤字だ」
祖父がボソッと呟いた言葉が頭から離れず、大学で建築を専攻していた私は、卒業設計で福島の林業と建築について考えました。調べるだけ林業の大切さと面白さ、沢山の課題も知ることができました。

大学卒業後はリフォーム会社で働いていましたが、実際に大量かつ多様に木材が使われている現場を目の前にして、産地は重要視されていないこと、ウッドショックで木材の価格は高騰しても需要はしっかりあることなど、林業と木材の消費の部分で空白を肌で感じておりました。

全国の林業について改めて調べ、林業の第六次産業化に興味をもち、地元での可能性の追求と人手不足の貢献に少しでも力になりたいと思い、知識・技術・資格を深く学べる林業アカデミーに志望しました。

今後は、林業の可能性を考えながら林業従事者の一人として、祖父たちが守ってきた山を守り続けていけるような人になるため、日々の学習に精進していきます。



安田 周知
(福島市出身)

私が生まれ育った地域では三〇年以上に渡り、環境保全活動を行っています。それによって自然と幼少期から里山保全の意識が形成されました。高校では土木分野を専攻し、環境整備や自然災害から人々の生活を守る減災への取り組みに携わる仕事に、深く興味をもつようになりました。

林業は、数十年あるいは一〇〇年以上と、とても長い年月を要する産業です。現在は丸太生産だけでなく、環境保全機能が発揮できる等の林業が果たす役割、そして多様な森林づくりが模索されています。

林業アカデミーふくしまでは、林業の基礎的な知識から、チェーンソーや機械化が進む林業に必要な高性能林業機械の資格取得など、専門的な技能も学ぶことができます。

私はこの一年間で学ぶ事をしっかりと身に付け、停滞している福島県の林業を振興させ、未来につながる森林づくりに携わる林業従事者になるために、安全第一・健康第一に取り組んでいきます。



山田聡一郎
(福島市出身)

私は前職の製造業にて購買・総務などの仕事を約十六年しておりますが、このままずっとこの仕事を続けていいのか？とふと疑問に思い以前から興味があった林業に転職したいと考えていました。

林業を調べていくうちに「林業アカデミーふくしま令和五年度研修生募集」にたどり着きコレだ！と思い応募しました。

林業は他の産業と比べ労働災害の発生率・死亡率も高いですが、実習を通してチェーンソー・林業機械等の正しい使用方法・メンテナンス、安全管理・対策をしつかりと学び、また、先端林業技術・高性能林業機械運転技術を習得して、県内林業の生産性・安全性向上に貢献できる人材になりたいと思っております。



吉田 香織
(田村市出身)

私は前職で森林に関わる業務に携わり、林業に興味を持ちました。そこに林業アカデミーふくしまの「来たれ、柚人よ」というチラシに目を惹かれ、受講することにしました。

それは直接、林業事業者や組合に就職し緑の雇用を受けながら仕事をすることを選択肢もあり正直迷いましたが、一年間研修を受け、林業についての知識や技術、資格を習得し、福島県の林業の歴史や原発事故による影響などの背景を知った上で林業に臨みたいと考えたからです。

研修後には地元田村市に就林したいと考えています。森林が豊かな田村市を林業で盛り上げ、森林の役割や林業という仕事をもっと多くの人に知ってもらい、関心を持ってもらえるような情報発信もしていきたいです。

社会人になってから一から丁寧に教わるという機会はなかなかないので、この学べる環境に感謝しながら一年間研修を受けたいです。



渡部 諒豊
(二本松市出身)

近年「木の家」の志向の高まりなどによって需要が伸びる林業。しかし担い手不足が課題になっている。そこで、私は林業の課題だけではなく林業の魅力を発信し世の中に広め、林業を「身近」な職業にし、魅力が沢山の人の知ってもらい、日本の山林をより豊かで素晴らしいものにしていきたいと考えています。

そのためにも伐倒や植林等についての知識や技術の基礎的なことはもちろん、資格やインターシップなどの研修を通して、林業が抱える課題やICTなどを活用するスマート林業などのアカデミーで学べること一つ一つを大切にし、自分の目標のためにも、そして福島山の山林のためにも、頑張ります。



緑の募金にご協力を!!

公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局

2023年 緑化運動標語 「緑植え ぼくにもできた SDGs」

「緑の募金」運動（当初は「緑の羽根募金」）は昭和25年より始まり、休むことなく、今年で74年目を迎えました。

緑の募金は、県内の緑化活動のための貴重な財源です。

当協会は、毎年4月1日～5月31日（春季）と9月1日～10月31日（秋季）を緑の募金運動推進期間として、活動しております。

緑化運動につきましては、その趣旨を皆様にご理解いただくことが重要ですので、積極的にPRを行い、「福島の色を守る」という機運を高めるため、引き続き活動を進めてまいります。

募金活動は、例年どおり4月1日からスタートしておりますので、皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

県内各地で行われている緑化活動



園児による地方植樹活動



小学生による緑化活動

令和5年度 緑の募金運動

1. 募金の目標額 70,000,000円
2. 募金運動の期間 4月1日～5月31日（春の新緑シーズン）
9月1日～10月31日（秋の紅葉シーズン）
3. 事業内容 (1) 森林の整備
県民参加の森林づくりの推進、地方植樹祭・育樹祭の開催等
(2) 緑化の推進
緑の少年団の育成、緑化苗木の配布、学校緑化活動促進、花いっぱい運動、緑の写真コンクールの実施 等
4. お問い合わせ先 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会（緑化推進局 緑化推進課）
〒960-8043 福島市中町5-18 福島県林業会館内
TEL：024-524-1480 FAX：024-521-3246



こちらからも
募金できます！

緑の募金ホームページ

募金する >

をご覧ください

鮫川村の野生のもみじがさ(しどけ)の 出荷自粛解除に向けた取組

福島県南農林事務所

林業普及指導員 山田茂隆

〇はじめに

東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い、県南管内では山菜の一部品目と野生きのこが、出荷制限の指示や出荷自粛の要請（以下「出荷制限等」という。）の対象となり、出荷制限等が解除された事例はありませんでした。

今回、鮫川村の野生のもみじがさ(しどけ)（以下「鮫川村のもみじがさ」という。）について、関係者一丸となった取組の結果、令和5年1月に出荷自粛が解除されましたので紹介します。

〇出荷自粛解除に向けた取組内容

(1) モニタリング検査及び詳細検査計画の作成

野生のきのこや山菜の出荷自粛の解除には、解除を目指す品目の放射性物質濃度について、次の①～②をモニタリング検査で確認する必要があります。

①安定して低水準（食品の基準値（100Bq/kg）の概ね2分の1以下）であること

②低下傾向にあること

出荷自粛要請以降、鮫川村のもみじがさについて、管内森林組合に協力をいただき48検体を採取し、モニタリング検査を実施してきました。その結果、安定して低水準であること及び低下傾向にあることが確認されました。

このため、令和3年度末には、鮫川村の担当者及び森林組合職員と出荷自粛の解除に向けて取り組むことを確認するとともに、解除予定区域全体の面的な安全性を確認するための詳細検査を実施すべく、検体の採取箇所等について検討し、詳細検査計画を作成しました。

(2) 検体の採取

令和4年4月からは詳細検査計画に基づき、森林組合が中心となり検体の採取を開始しましたが、これまで採取してきた箇所が皆伐され、生育環境の変化により採取できないなどのケースが発生しました。このため、農林事務所職員も自ら採取のため、積極的に鮫川村の林内を踏査し検体の採取を行うとともに、過去にもみじがさを出荷していた方を直売所から紹介して頂き、新たな採取箇所を増やすなどの対応により、詳細検査に必要な14検体を採取することができました。

(3) 結果の取りまとめと報告

詳細検査で採取した14検体とモニタリング検査の48検体、併せて62検体について、検査結果を取りまとめ、統計的に基準値を超過する確率が低いことを確認しました。

その後、出荷自粛解除後の検査体制と適切な出荷管理について、鮫川村と打合せを実施し、打合せ結果と共に検査結果を県林業振興課へ報告しました。



もみじがさ

〇おわりに

鮫川村のもみじがさは、平成29年5月に出荷自粛の要請を受け、令和5年1月26日に解除されました。出荷制限等の対象となっていた山菜や野生きのこの品目では、県南地区において初めての解除品目となりました。

今後、かつてのように、鮫川村のもみじがさが直売所等に並ぶのが楽しみです。

今回の解除を足掛かりとして、残りの品目についても解除に向けて一歩でも前進するよう職員一同取り組んでまいります。



鮫川村との打合せ

フォレストだより

コロナ禍を経て、 いよいよフルオープン

公益財団法人 ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

令和二年から続けてきた新型コロナウイルス感染症防止対策としての各種利用制限を令和五年三月末でとりやめ、四月からは施設予約数やレンタル品種類の制限を無くし、いよいよコロナ禍前と同様のフルオープンすることになりました。ここで、三年間にわたったコロナ禍における財団の対応及びお客様の利用状況についてまとめてみようと思います。

令和二年四月中旬から一か月間、県からの要請によりキャンプ場や日帰り温泉などを休業し、休業後の一か月間は県内からのお客様に限定して施設の提供を行いました。六月下旬に県外からのお客様の受入れを再開しましたが、管理棟ロビーや温泉施設などの共有スペースでの三密（密閉・密集・密接）を避けるため、施設予約数を五〇％まで制限し、七月から十一月初めまでは施設予約数を六〇％に制限しました（冬期の一部施設クローズ期間は予約制限無し）。令和三年度は施設予約数を七

〇％に、令和四年度は施設予約数を八〇％に制限し、さらに制限期間中は一グループの利用施設数を二施設までとし、人数制限や同居ご家族のみでの利用を推奨しました。レンタル品は、直接肌に触れるテント、寝袋、毛布などを貸出中止としました。

コロナ禍三年間で、お客様の利用状況はだいぶ変わりました。コロナ禍前から、インターネットによる情報の充実（キャンプ場の評判や予約、キャンプ用品の使い方やキャンプの楽しみ方を、動画で見ると、SNSによる個人からの情報発信の拡大（映える写真や動画を発信）に伴う「キャンプブーム」が始まっていたようですが、コロナ禍においては、三密になりにくいレジャーとして更に人気を後押ししました。「ソロキャンプ・デュオキャンプ」といった少人数キャンプの利用割合が格段に増え、また「働き方改革」や「在宅勤務」の影響なのか、平日の利用が増

えたことも特徴です。その結果、少人数で気軽に何度でもご利用されるキャンパーが大変増え、現在も月に何度もお越しになる方が多くおられる状況です。

利用については、コロナ禍前の令和元年度に比べ、令和二・三年度は、

利用制限のため収入・人数とも大きく落ち込んだ一方、土曜日や連休時は利用を希望される方のキャンセル待ちが続く状況でした。利用動向については、初めてキャンプをされる方が増えた影響で「初回利用」が増加し、また、「県民利用」が増加しました。令和四年度は、引き続き利用を制限した中でしたがコロナ禍前に迫る利用実績となり、キャンプブームの勢いを

実感する結果となりました。

フルオープンした令和五年度は、更に多くのお客様に向けて、キャンプやアウトドアイベント、森林環境教育プログラムなどを通じ、福島県の森林の魅力と森林との共生について発信していきたいと思っております。



苗協だより

スギ特定苗木の
安定供給に向けて
採種園を造成
しています



◇はじめに

林野庁ではスギ花粉発生源対策を効果的かつ着実に進める観点から、「スギ花粉発生源対策推進方針」において、スギ苗木の年間生産量のうち、スギ特定苗木などの花粉症対策に資するスギ苗木が占める割合を令和十四年度までに約七割に増加させることを目標に設定しました。県は国の施策に合わせ、いち早く特



造成を開始した会津美里採種園（令和4年秋植栽）

定母樹の採種園造成に取り組み生産体制を整備しました。その結果令和二年には他県に先駆けて特定母樹種子の生産を開

始し、当組合ではそれら種子を譲り受け育苗を行い、昨年より特定苗木を出荷することができました。令和四年度には特定苗木を二十八万四千本出荷し、今年度は県内で造林されるスギの約四割にあたる約三十二万本の出荷を予定しています。

◇特定増殖事業者の認定

国では、民間活力を導入して特定母樹の普及を進めるため、令和三年に「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」を改正し、民間事業者でも採種園を造成し種子を採取することが可能となりました。

当組合では、今後、さらに特定苗木の需要増加が見込まれることから、県で進めている林木育種事業を補完し、安定的に苗木供給を図っていくため、特定増殖事業者の認定を受け、補助事業を活用した採種園造成の取り組みを始めました。

◇ミニチュア採種園の造成

造成する採種園は、従来の採種園よりも採種木の高さが低く、植栽間隔も狭

く、採種園全体をコンパクトに仕立てる方法により、造成後四年程度で種子の採取が可能となるミニチュア採種園です。森林総合研究所林木育種センターが開発した特定母樹の挿し木苗を用いて、林業種苗法によるスギの配布区域別に会津美里町、南相馬市の二か所に造成していくことを計画しています。令和四年度は、林木育種センター東北育種場や県会津農林事務所と当組合会津支部の協力を得て会津美里採種園に一八五本の苗木を植栽しました。

造成にあたり、育種効果を高めるため九種以上のクローンで構成し、配置によつては自家受粉や近縁クローンの交配により種子の品質が低下することから、同じクローンが隣接しないように林木育種センターで開発したソフトを活用して配置を設計しています。

◇採種園造成計画

○会津美里採種園（○・二二ハ）
特定母樹クローン数 一六クローン
（耐害性特定母樹）
植栽母樹数 九九本／ブロック×六
ブロック 合計 四〇七本



採種木にラベルを付けてクローン管理

◇おわりに

採種園造成後も施肥・除草、病害虫防除、ジベレリン処理（着花促進）、採種、整枝剪定などの様々な管理と作業が必要となります。当組合も採種園経営は初めてであり、今後も県や林木育種センターと連携しながら、少しでも早く品質の優良な種子を生産できるように取り組みを進めてまいります。



採種木の雪害予防対策（会津美里採種園）

植栽間隔 一・五m×一・七m
目標採取量
令和八年から約七キログラム／年間
造成完了 令和六年
○南相馬採種園（○・〇七ハ）
特定母樹クローン数 九クローン
植栽母樹数 九〇本／ブロック×三
ブロック 合計 二七〇本
植栽間隔 一・四m×一・四m
目標採取量 令和八年から約三キログラム／年
造成完了 令和五年

木の文化を育む⑤

生きがいのある暮らし〜コミュニティの創出〜

(NPO法人あたら青い空)

郡山女子大学 生活科学科 建築学デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

日本の自然環境には、世界に誇れる多数の景色や四季折々のすばらしい情景があります。ハイキングやウォーキングなどの身近な自然との触れ合いは、健康と人々との交流を促進し、新たなコミュニティの創出につながります。

○東日本大震災を契機に

安達太良山の自然に囲まれたNPO法人あたら青い空（福島・二本松）を運営する、佐藤昌弘さん千恵子さん夫妻は、二〇一二年に福島を支援するため、神奈川県よりUターンしてきました。

福島県川俣町出身の昌弘さんは、二八年間神奈川県の高校で教員を務めた後、二〇一三年に同法人を開設し、教育相談をはじめフリースクール青い空や不登校の保護者との交流会の他、被災者支援ハイキング、自然や歴史を楽しむウォーキング、森のようちえん&がっこう、子ども食堂、放課後学習支援・地域交流活動など多岐にわたる事業を行っています。

○「青い空」レクリエーション支援

昌弘さんは登山暦が長く、これまでに全国の百名山や二百名山をほぼ踏破しています。さらに、日本キャンプ協会公認キャンピングストラクターや勤労者山岳連盟主催の登山学校、森のようちえん指導者養成講座を受講するなど、あらゆる経験を礎として、青い空の様々なレクリエーションを企画しています。

県内外でのハイキングやウォーキングは、東日本大震災後、二〇一二年より継続してきた被災者および地域住民への支援です。ツツジ、水芭蕉、日光黄萱など、四季折々に咲く花を目指して散策する仲間との交流は、参加者一人ひとりの生きがいとなり、心の支えとなると共に、身近な自然や地域の歴史、文化を知る良い機会となっています。

○森のようちえん&がっこう

あたら森のようちえん&がっこうでは、森の探検や木登り、焼いも・ピザ作りなど、自然環境を活かして子ども達が自由に遊ぶことで、感性

や生きる力などを育みます。あたらの自然をフィールドとした森遊びや川遊びなどの自然体験活動を通して、子ども達の健やかな成長を支援しています。

○地域の居場所づくり

毎月のこども食堂「ハラクッチー」は、開設から七年目を迎えます。親子や兄弟での参加が多く、地域の居場所となっています。今後は、福祉センターと各地域の住民センターでの開催をすすめ、地域の交流促進の場「ふれあい食堂」として、人々の交流を促進し、今後も継続して地域の子育て交流を支援していきます。

○まとめ

同法人では二〇二一年度より、二本松市と福島市において、地域交流事業「エール」を実施しています。多世代での交流を図り、自分の生きがいと地域への貢献を実現する場と

して自由に集まり、やりたいことを一緒に取り組んでいます。身近な自然との触れ合いを通して人々が繋がり、生きがいをもって日々の暮らしを豊かにしています。貴方も自然と触れ合い、生きがいを共に創りませんか。



森のようちえん&がっこう
上から（焼いも作り・川遊び・森遊び）



安達太良山ハイキング

県森連いわき共販における木材市況（4月分）

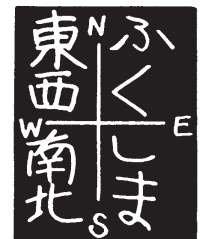
令和5年5月1日
福島県森林組合連合会

(単位：㎡当り千円)

素 材						素 材							
樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要	樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要		
スギ	4.00	9下	12.0	11.5		カラマツ	4.00	12下					
		10~13	14.5	13.5				13~14					
		24上	10.8	10.1				16上					
	3.65	16上				クリ	4.00	16上					
		24上	10.7	10.2			3.00	16上	12.0	10.0			
	3.00	9下	12.0	11.0		モミ	4.00	20上					
		10~13	11.5	11.3		市況概要と市況展望						5月の共販日 17日(水) 29日(月)	
		14~16	9.6	9.4									
		18~20	11.0	10.6		入荷量は多いです。販売量は3,311㎡（前年同月比76%）でした。 市況は、先月同様、製品の動きが悪いこと、木材量超過等の影響で値下がりがしています。荷動きも悪く木材の流れが滞っています。 先行き、県内外問わず、この状況が長期化する可能性があります。 今後、虫害も心配されますので出荷する際は十分に考慮いただくようお願い致します。							
	22上	10.5	10.0										
6.00	16~20				行 事 と お 知 ら せ 創立記念市 5月17日(水) いわき木材流通センター 県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 福島県森林組合連合会 木材市況 <input type="button" value="検索"/>								
2.00	16上	7.5	5.5										
ヒノキ	4.00	10~13											
		14~16											
		18~20	16.0	15.3									
		22上											
3.00	16~20	14.4	13.5										
アカマツ	4.80	18~22											
	4.00	18~22	10.0	9.0									
		24上	10.0	9.0									
	3.00	16~22											
		24上											

小学生の頃、校庭の片隅にあった藤棚は思い出深い場所です。ぶら下がったり上ったりして遊ぶだけでなく、二チームに分かれる鬼ごっこ「泥棒と警察」では、捕らわれた泥棒が収監される「檻」の役目を果たしていました。また、花咲く時期は強く甘い香りに酔いそうになったり、ぶんぶん飛び回るクマバチを恐る恐る追いかけたり、「フジ」に対しては良い印象しかありませんでした。しかし、林業の世界に入ってわかったのは、造林木の生育を阻害する厄介者であり、除去すべき相手だったということです。自分の見ている世界が狭かったことを認識した次第です。

各種補助事業の完了確認や県有林の現況確認等で管内の森林をまわることが多いのですが、道路周辺や人家周りなど、普段生活する場所から見える里山が（中には農地や人家まで



鉈を持って山へ

福島県農林事務所 掃部 康宏



例年5月に咲く親戚宅のフジ

もが、フジやクズなどのツル植物に覆われているのをよく見かけます。おそらく一昔前までは、里山でたきぎを拾いながら、目についたツルをその都度切っていたのでしょうか、里山に入る人がいなくなった今、放置されたツル植物が繁茂し、フジの中にはチェーンソーでないと切断できないくらい太くなっているもの見かけます。こうなってしまうと、間伐するにしても皆伐するにしても安全な作業が難しくなり、ますます森林整備への意欲が減退してしまいました。外出するには良い季節となりました。山をお持ちのみなさん、鉈を持って山に出かけませんか。

はなしの
ひろば

聴く

世界的な音楽家、坂本龍一氏は、病で衰えていく体力、気力の中で、明治神宮外苑（東京）の再開発に伴う樹木の伐採に抗議する書簡を、都に送っていたという。樹齢一〇〇年の樹木を伐採することによる自然環境への影響を考えての抗議だったが、その他に、風で葉と葉が擦れ合う音、葉先から滴る雫の音、そして、幹を静かに上り降りする虫たちの歩く音など、都会から自然の響きがなくなってしまうことを、心惜しかったのではないだろうか。三月二八日に氏が亡くなってから、すぐに、世界中が悲しみでざわつき始めたのを機に、CD「12」を聴いた。スケッチするように音を紡いだといわれるその十二曲には、日記のように日付がタイトルになっている。

その音楽はとても不思議だった。とても不思議だったので目を凝らして聴いた。その音の流れは、森羅万象すべてのものの、深く、ゆるやかな呼吸の律動に感じられた。

風薫る五月。五月の風は、やさしい。水田を大きな風の掌がなでていくと、小さな波が立つ。耳を澄ませば、小さな波音が聞こえてきそう。そして、五月十日からは「愛鳥週間」鳥の鳴き声も音符にすれば短い音楽になる。

今年の春は、サクラ、モモ、リンゴ、ハナミズキの花が咲き続き、息つく暇もなく、次から次と彩り豊かな町を目で楽しんだ。今度は、鳥の声、五月雨の音、葉の擦れる音、耳で聴く五月になった。自然の響きに耳を傾けながら目を凝らし、音の風景も楽しめる季節になってきた。

(都)

表紙の写真



「次世代の息吹」

第19回ふくしま森林・林業写真コンクール 奨励賞
受賞者 田中 剛さん（伊達市）
撮影場所：水林自然林
コメント：生命力を感じます。

編集

発行人

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番一八号県林業会館内
飯沼 隆
陽光社印刷株式会社
(定価 一〇〇円)

お知らせコーナー

第35回きのご料理コンクール全国大会 「服部栄養専門学校長賞」受賞

令和5年3月7日、東京の服部栄養専門学校にて全国大会が開催されました。福島県の代表者である深谷ヴィヴィさんは全国3番目の賞となる服部栄養専門学校長賞を受賞されました。コロナ禍においての現地開催中止が続いたため、4年ぶりの出場者が会場調理できる全国大会となりました。使い慣れていない強火力コンロや調理道具等に出場者全員が苦戦したなかで、見事な受賞となりました。審査員の方々から対面で感想をいただける機会を持つことができ、大根餅を作る工程が面白かった、歯ごたえもあって良かったとの評価をいただきました。また、意見交換会もおこなわれ他県の出場者と感想を述べあう機会も頂きました。調理や審査風景、作品などの詳細は日本特用林産振興会のホームページに順次掲載されますので、是非ご覧ください。

【開会式の様子】



【受賞者一覧】

本賞	県名	氏名
林野庁長官賞	群馬	川端 希歩
	鹿児島	田中 大海
しいたけ等特用林産振興議員連盟会長賞	愛媛	横田 英美
	福島	深谷ヴィヴィ
服部栄養専門学校長賞	栃木	片根 優来
	山形	三上 莉奈
日本特用林産振興会長賞	栃木	薄井和香奈
	長野	山崎 愛生
	和歌山	宮本とも子

【調理審査の様子】



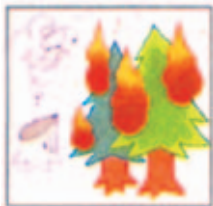
【服部栄養専門学校長賞受賞作品】



サスティナブル福島！
干し椎茸と
いかにんじんの大根餅

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッタ解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-8コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ(オプション)

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
(支 店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



SR3100



破碎径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ 林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1